

7割「入社してよかった」

ワールドコーポ調査 建設業の若手

建設派遣業のワールドコーポレーション（本社・東京）は、「建設業で働く若手の本音調査」を実施した。入社前は3K（きつい、汚い、危険）

のイメージに不安を抱いていたものの、入社後は「入社してよかった」と7割以上が回答。仕事のやりがいや将来性を見いだしている実態が明らかになった。

全国の建設現場で働く15歳から39歳までの若手社員600人を対象にインターネット調査を実施。入社前のイメージは「きつい、体力勝負で大変そう（44・8%）」が最も多く、次いで「上下関係が厳

しそう（28・2%）」、「休みが取れなさそう」（27・3%）」と続き、体力面や人間関係に不安を感じていた若者が多かった。

一方、実際に働いてみると72・5%が「入社してよかった」と回答。理由として「手に職がつき、将来の自信につながる」（22%）、「思っていたよりも頭を使う仕事で面白い」（21%）、「成果が形に残ることにやりがいを感じる」（17%）」といった回答が続き、知的好奇心や達成感を感じている様子がうかがえる。

仕事のやりがいに関し、では「建物など形に残るものを作れること」（25・

7%）がトップ。次いで「社会に必要とされている実感」（20・8%）が挙がり、建設業への誇りを実感する。

こうした中、75・5%が自身の成長を実感している。職場に求めるサポート体制では「わからないことをすぐに先輩や上司に聞ける環境」（32・8%）、「悩み事を相談できるフォロー体制」（25・2%）が上位となり、技術習得だけでなく、心理的安全性や成長機会を重視する傾向が見られた。

同社では、建設業が3Kから3S（支え合える、スキルが身につく、将来性がある）の時代へ移行していると分析。若手の定着と活躍には、組織的なサポート体制の構築が不可欠だとしている。